

友 情

＝第31号＝

平成24年（2012年）3月発行

富士宮国際姉妹都市協会

富士宮市弓沢町150番地

富士宮市くらしの相談課内 0544(22)1486



一年を振り返って

会長 望月伸浩



平成二十三年度総会にて会長に就任しました望月です。任期二年よろしくお願いたします。

顧みますに、昨年は東日本の大震災、富士宮市北部を中心とした地震、更に世界各地で多発した大規模自然災害、経済不況等が重なる一年でした。被害にあわれた方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、当協会の本年度の事業計画の交換学生事業、親善訪問団事業、市民交流事業等の実施については、市民を始め関係各位の皆様のご協力全てが無事終了することができました。改めて感謝申し上げます。

まず高校交換学生については、多くの応募がある中、最終的には五名を派遣。一方サンタモニカ市からは四名を受け入れました。両市学生は、異文化で貴重な体験し、将来は両市のために大いに貢献してくれるものと期待します。

親善訪問団では、予想以上の申込があり、総勢三十二名が八

月十八日から一週間訪問しました。LA空港ではサンタモニカ姉妹都市協会のホワイト会長やナット副会長らから、市庁舎ではブルーム市長と幹部の方々から歓迎を受けました。当市からは市長代理の総務部長や市議会議長らが記念品を渡しました。翌日夜には名門「リヴィエラカントリクラブ」にて両市民の盛大な交流夕食会が開催されました。その都度SGIの方々との通訳のご協力をいただき感謝いたします。親善訪問団も今回で十六回目、通算六百五十名を数えるに至りました。

更に市民交流として、十三年ぶりに国際交流高校生サッカー大会が行なわれ、当市からは高校選抜サッカー選手団十六名が参加、成功裏に終えることができました。サッカーやホームステイでの交流を通し、国際人としての資質向上やお世話になった方々への報恩感謝の心を育まれたことと思います。

以上本年度の事業報告をさせていただきます。当協会がこれからも益々発展できますよう、引き続き皆様のご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

紺ぺきの空と厚き友情

山本文尚

富士宮市と国際姉妹都市提携を結ぶサンタモニカ市の八月十八日いよいよ出発で親善訪問団に、初めて参加させていただきました。
望月会長の熱い思いにサンタモニカ市行きを決意。
事前の説明会、須藤新市長

を迎えての結団式を済ませ、八月十八日いよいよ出発です。当日、市役所前にて壮行会を行い訪問団の無事・大成を祈りつつ、たくさんの見送りの中、正午、専用バスにて成田へ向かいました。



イアンさんと交流夕食会にて

夕刻七時、シンガポール航空一二便は、訪問団三十二人と親善サッカー選手団の高校生十六人を乗せ、ロス空港へと飛び立ちました。

機内で夕食、うつらうつらの眠りに包まれ、朝食を済ますとそこはもうロス空港。現地時間午後一時半でした。十時間少々の空の旅。

紺ぺきの空と、さわやかな風が私たちを迎えてくれました。

専用バスにてサンタモニカ市庁舎に着くと、市長、元市長、協会長らがそれはそれは熱く私たちを歓迎。

望月会長、朝比奈議長とサンタモニカ市長とのお土産、記念品の交換。そこに初めて居合わせた私は、両市の長年にわたる友好の厚き歴史を、涙ながらに見ていました。
「これは単なる訪問団ではないな」

翌十九日午後六時より今回最大の行事、サンタモニカ姉妹都市協会との交流夕食会。

場所は「リヴィエラ・カントリークラブ」のクラブハウス。

ここは八十五年の歴史を持つ、世界のセレブが集うハリウッド、マリブ、サンタモニカの中心地に立つ世界最高峰の名門メンバーズクラブだ。

二〇一〇年あの石川遼が初のアメリカツアー第一戦目を迎えたのもこのクラブでした。サンタモニカ協会の厚き友情を感じながら夕日に輝くクラブへ。

クラブ前にて記念写真を撮り、南欧風に彩られたハウスへと案内されました。

テーブルごとに協会側、通訳、私たちとすでにダイナーの用意が。

姉妹都市提携時のサンタモニカ市長ナット・トラヴィス氏が進行役を務め、サンタモニカ市長ブルーム氏のあいさつ、望月会長、地元SGI（創価学会インターナショナル）渉外部長イアン・マクレイ氏がこの友情を永遠にとあ

いさつ、朝比奈議長、そして石川総務部長より須藤市長からのメッセージが読み上げられました。

テーブルを見ると厚さ四センチはあると思われるアメリカ

カサイズのフィレステーキ！ そのおいしいこと。感激。

各テーブルでは歓談の花が咲き、お土産の交換やら、互いに写真を撮り合い、場内はむせ返るような熱き思いにあふれていました。

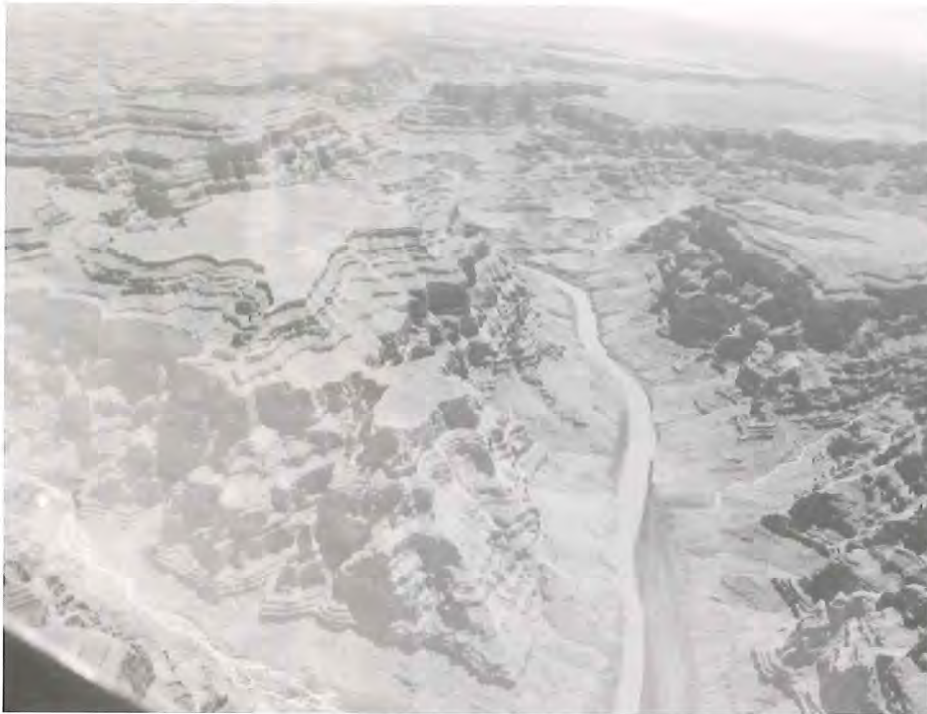
思えば今から三十八年前の昭和四十八年十月、富士宮市内で開催された創価学会による国際友好親善パレードがきっかけとなり、両市長のメッセージおよび記念品の交換などの友好関係が生まれ、昭和五十年サンタモニカ市一〇〇周年記念式典の席上、提携を結んだとのこと。

今年は提携から三十六周年。歓談をしながら、ここま

で長い間さまざまな交流事業を進めて来られた関係者の皆さまのことに思いをはせると感慨無量、思わずステーキを腹の底に押し込みました。

ここで食べているだけではなく、個人として何ができるか。親善交流のためになすべきことを考えながらクラブハウスを後にしました。

翌二十日昼過ぎ、富士宮市高校選抜サッカーチームと地



憧れのグランドキャニオン

元サンタモニカ高校ほかとの対戦を見学。はつらつとグラウンドを駆け巡る若き青年たち。対戦は四戦して二勝二敗とのこと。ホームステイで過ごした彼らに将来の夢を託して、夜はビバリーヒルズへ。四百席が満席の名店「ローリーズ・プライムリブ」にて前夜に続いて三百グラム！リ

ブロースに挑戦。東京赤坂にも同店があると聞きウキウキ。満腹後はグリフィス天文台からロス市街を一望するけんらんたる夜景を堪能。二十一日は憧れのグランドキャニオンへ。

ホテルを朝四時半にバスで出発。ハイウェイをひたすら走る、走る。途中朝日に輝く

アメリカの大地に感動。そこは別世界。五時間かけてボルドー・シティー空港へ。体重を量られ、座る位置を決められ揺れるセスナ機で一時間。アリゾナ州に広がる神秘の世界遺産。今から七千万年、地殻変動により隆起したという。以来コロラド川による侵食が始まり、今なお続いており、およそ二十億年前の原始生命誕生時の地層を侵食しているとのこと。

言葉では形容できない想像を絶する空間、歳月。この目で見たときの驚き、自然の神秘、宇宙大の広さ、深さに我が身を思う。我が生命の奥にもこのように広く深い尊貴なるものがあるのだろうか。

交換学生としてサンタモニカ市を訪れていた五人とともに総勢五十三人、二十三日午後七時には全員無事成田へ。同行していただいたすべての友人・先輩に感謝を捧げ、短くも長い四泊六日の充実した旅を思い返しています。

サンタモニカ市親善訪問団に参加して

佐野 公康

富士宮市とサンタモニカ市の親善交流が、去る八月十八日～二十三日の四泊六日の日程で行われました。今回訪問できるとは思っていませんでしたが、知人からの誘いがあり、七人のグループで参加させていただき、また高校生の親善サッカー交流会の人たちと一緒に、大勢の訪問団となりました。久しぶりの海外への旅で、妻とともに大いに期待して市役所を出発し、成田を十九時十三分シンガポール航空で発ち、途中日付変更線を通過。日本時間で三時ごろ機内食が出たのに驚いた。機内には早くから朝日が差し込み、アメリカ西海岸が見え始めた。広大な大地だが、日本の上空から見るとような青い森林風景でなく、木もない山肌が見えるだけの砂漠のような光景だったが、ロサンゼルス空港に近づくにつけ、青い木も見え、街も見えてきた。街はきれいに区画

整理されていて、幹線道路はまっすぐに伸び、道幅も片側七車線と広く、縦横の道もしっかり整備され、そこに車がいっぱい走っている。また住宅の真ん中にゴルフ場もいくつか見えた。日本では民家から離れた山の中にあるというイメージがあるのでびっくりした。これもゴルフ場が先にできてそれから住宅ができたのではないかと、グループの人たちと適当な想像をしていた。

空港に着くとサンタモニカの協会の人たちが大きな声で迎えてくれ、前市長も大きな体で愛想良く握手をしたり写真を撮ったり、温かく迎えてくれる気持ちがいじみと伝わってきて本当にうれしかった。バスで市役所に行き、議場に案内され歓迎のあいさつを受けました。市の職員は数も少ないように感じ、また議会の席も富士宮の議会と違うので参加者から質問をしまし



セスナ機に乗り、グランドキャニオンへ

たが、時間がなく聞くことができませんでした。消防のはしご車やパトカーを見学。パトカーには自動小銃二丁が実弾入りで備えてあり、警備の厳しさを感じました。バスで市内観光。山際の道を行くと、お金持ちや有名な人の住宅などが見えたが、それは大変優雅な住宅街。高く伸びたヤシの木、紫色の花をつけたジャカラダ、どっしりとした大きな街路樹。どこの家もきれいに芝を刈り、手入れをしてある。素晴らしい街を見ながら、また混雑する道を走りホテルに。

二日目はゲッティセンター

の見学。石油投資で財を成したゲッティ財団を設立し、広い土地に美術館を建て、今まで集めていた世界の名画や木も世界から取り寄せた名石で、世界建築技術の粋を集めた素晴らしい建築といわれ、各国からの建築家が訪れているとのこと。この日も家族連れや観光客が大勢訪れにぎわっていた。昼食はセンターで食べたが、量も多く食べ残した。午後にはバスで相変わらず渋滞の多い七車線を走りビーチ通りに出た。海には大勢の人たちが来ていたが、ここは水温も冷たく急深のため海水浴には不向きで、サーフィンや日焼けのために来ているとのこと。この日は早めにホテルに着いた。夜はリヴィエラ・カントリークラブで現地の協会の人たちとの交流会。各テーブルに分かれて座り、交流会も楽しく盛り上がり、時間の経つのも忘れられた。九時過ぎまでも会が続く、親善交流も十分深められたことと思います。またクラブの売店でお土産を求めたりして、堪能してきました。

三日目、一度は行ってみたいと思っていたグランドキャニオン国立公園。朝五時バスで出発。五時間半の長旅。走るバスから見る光景は、見渡す限りの荒野が続く、西部劇で馬車が走ってきそうなか、何百輛もあるかと思う長い貨物列車が走っていた。

やっと空港に着いた。というのも五時間もバスで走って休憩は一回のみ。途中ドライブインやトイレ休憩はなし。日本では考えられないことで、燃料切れや故障したらどうするのか不安を感じた。セスナ機に乗り、機上からの眺めは延々と続く広大な風景に目を



グランドキャニオン国立公園で記念の一枚

見張りました。砂漠地帯の続く中、大きな湖が見え、下流に何本かの川が流れていた。この川は幅九十メートル、深さ九メートルあり、いかだ下り人が人気で大勢の人たちが訪れているとのこと。一時間半の遊覧で、空港に着き、バスで国立公園に。ここは世界各国から年間四百万人以上の人が訪れるまさに世界に誇る世界遺産グランドキャニオン。面積は四千万平方メートルを越す広さ。見事なまでの巨大な自然の力。神秘的ともいえる魅力にはいつまでも見ているも飽きない。素晴らしい光景に感動し、再びセスナ機で帰途に着いた。ホテルには夜中の十二時。強行軍で少し疲れた。

四日目は国境越えでメキシコのティファナへのオプショナルツアー。バスで国境付近まで行き、徒歩で大きな橋を渡り、鉄の回転扉よりメキシコ領へ入ってみると、違った雰囲気を感じられた。今まで見られなかった路上での手押し車に商品を並べ、しっかりとした日本語で商売をする人が多く、また三車線の道路中に入ってまで物売りをしてい

るのには驚いた。よく事故がないものだと感じた。昼食にはテキーラを一杯飲んでみたが、やはり強い酒だった。買い物を済ませ、鉄の柵一つで経済文化の違いを感じて出国した。出国には長い行列ができ、時間もかかった。サンディエゴを観光し、ホテル着。夕食はホテルの近くの食堂で食べた。



オプショナルツアーのメキシコも満喫

が、また三車線の道路中に入ってまで物売りをしているのには驚いた。よく事故がないものだと感じた。昼食にはテキーラを一杯飲んでみたが、やはり強い酒だった。買い物を済ませ、鉄の柵一つで経済文化の違いを感じて出国した。出国には長い行列ができ、時間もかかった。サンディエゴを観光し、ホテル着。夕食はホテルの近くの食堂で食べた。

サンタモニカ市親善訪問団に参加して 渡邊咲子

八月十八日、サンタモニカへ向けて出発。バスポート、航空券をしっかりと握り締めて成田空港を出発した。約十時間飛ばすところはアメリカ。長時間のフライトだった。疲れはあまり感じず、わくわくドキドキ感でいっぱいだった。

到着後はサンタモニカ市役所へ。優雅な雰囲気とエネルギーが、美

八月十八日、サンタモニカへ向けて出発。バスポート、航空券をしっかりと握り締めて成田空港を出発した。約十時間飛ばすところはアメリカ。長時間のフライトだった。疲れはあまり感じず、わくわくドキドキ感でいっぱいだった。

到着後はサンタモニカ市役所へ。優雅な雰囲気とエネルギーが、美

八月十八日、サンタモニカへ向けて出発。バスポート、航空券をしっかりと握り締めて成田空港を出発した。約十時間飛ばすところはアメリカ。長時間のフライトだった。疲れはあまり感じず、わくわくドキドキ感でいっぱいだった。

到着後はサンタモニカ市役所へ。優雅な雰囲気とエネルギーが、美

八月十八日、サンタモニカへ向けて出発。バスポート、航空券をしっかりと握り締めて成田空港を出発した。約十時間飛ばすところはアメリカ。長時間のフライトだった。疲れはあまり感じず、わくわくドキドキ感でいっぱいだった。

到着後はサンタモニカ市役所へ。優雅な雰囲気とエネルギーが、美



リトルトーキョーは、ちょうど二世ウィークでした

貿易センタービルテロのこと
が頭に浮かんできた。人間同
士の争いはなぜ?…と。
そして、世界遺産ブランド
キャニオンは、一度は行って
みたいと思っていた憧れの場
所だった。
朝四時、モーニングコール
で飛び起き、大急ぎで支度し
た。晴天の素晴らしい朝、
いよいよ上空からのセスナ
遊覧飛行。三百六十度の大パ

ノラマ、その眺めは最高。夢見
ているような気持ちだった。
何億年もの地球の歴史を目的
の何に、太陽の角度で岩
肌の色が千変万化するその光
景は、悠久の時間の中に迷い
込んだかのように、地球の歴史を目的
球ってすごい!と大きな
な自然に抱かれていた。
ことに気付かされた。
富士山や日本の四季も
素晴らしいけれど、グ
ランドキャニオンのス
ケールには圧倒され
た。日本では味わうこ
とができない壮大さ
だった。今までに行っ
たどこよりも美しかった。
この美しさに魅了
され、普段乗り物酔い
する私は、酔うことも
なく不思議な世界へ入
り込んでいたのだっ
た。

今回、地球の壮大な
歴史を伝えてくれる、
世界遺産の大自然を体
感できたことは、最高
の喜びだ。自分の足で
しか見られない景色が
あり、新しい発見や出

会いがあり、そこには喜びが
生まれ、旅をより充実するこ
とができた。

交流会では、片言の英単語
を並べ伝えるだけでも、相手
の反応や気持ちが変わってき
て、楽しい気持ちになれたの
も思い出の一場面だ。もっと
英語で話せたなら、より深い
交流ができたのではと実感し
た。

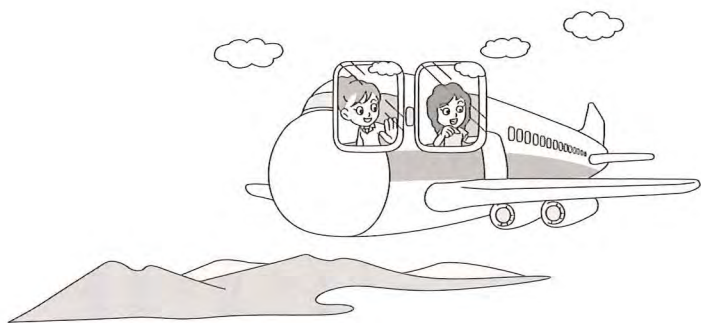
今、旅先から持ち帰った記
念のスーベニールを見ると、
旅行中の出来事がいろいろと
思い出される。

今回親善訪問に参加した目
的は、サンタモニカ訪問団募
集のチラシを見て、私もこの
目でアメリカを見てみたいと
思ったからだ。しかし、
当初の目的以上に得たものは
大きかった。お互いの国の交
流から、国や人種にかかわら
ず、平和という一文字の重
み、お互いの市の交流の大
切さを感じた、また、この旅
を通して、地球の壮大な歴史
を知ることができたこと、行
く先々での多くの発見と感動
が、私の心を豊かにしてくれ
た。また一つこのサンタモニ

カ行きは、私の思い出の大切
な一部となり、幸福感でいっ
ぱいだ。

同行の皆さまには、温かく
仲間入りさせていただき、楽
しく旅行できたことを感謝し
ている。
このような機会がまたあつ
たならば、参加したいと思っ
た。

ありがとうございました。



貴重な体験・素晴らしき出会い in Santa Monica!

静岡県富士見高等学校一年 植松茉莉絵

「Excuse me. Are you

Diane?」

私のサンタモニカ研修はこの一言から始まりました。

七月十二日の夜、富士宮市役所にサンタモニカからの交換学生であるダイアン・ラモスさんを迎えに行きました。私はすぐドキドキしていました。

私の家で三週間ちゃんと過ごせるだろうか？私の英語は通じるだろうか？と不安だらけでした。しかし、その不安はたった一日で解消されました。

日本に着いた翌日から、ダイアンさんは私と一緒に静岡県富士見高等学校に通い始めました。学校では、ダイアンさんが来る前から、先生たちが授業のスケジュールを考え、てくれていました。学校も生徒も快く受け入れてくれました。ダイアンさんと受ける授業は、いつもと変わらない授業を受けているはずなのに、なぜか新鮮な感じがしまし

た。

家庭科の授業では、「ビタ

ミンを含む食品」についてやりました。野菜の季節分類では、班のみんなとダイアンさんと協力してできました。また、英語で野菜は何と呼ばれているのかも分かり勉強になりました。

オーラル・コミュニケーションの授業では、日本の紹介を班ごとに分かれてしました。日本のすしについて、日本で人気のアイドルAKB48についてなどいろいろなことをダイアンさんに伝えました。とても喜んでくれました。

放課後は、いろいろな部活を体験しました。茶道部では、浴衣を着せてもらいお茶をたてたり、和菓子を作ったり、かるた部では、試合の様子を見たりして日本の伝統的な文化を学べたと思います。英会話部では、一緒に鶴を折り、それを駒にしてすごろく

をしました。

二十一日から二十四日まで私は勉強合宿に参加していたため、ダイアンさんと会えなくてすごく寂しかったのですが、私がいなかった四日間は母と共に富士宮観光をしたとのことでした。

二十七日には、学校でお別れパーティーを開いてくれました。調理室で富士宮焼きそばとグレープフルーツゼリーを作りまし

た。校長先生をはじめ、お世話になった先生方を呼び、さらに英会話部の三年生を呼んで引退パーティーを兼ねて行いました。焼きそばが好きなダイアンさんはすごく喜んでくれました。



ダイアンの友達と Six Flags へ行きました

ダイアンさんの要望に添えて王子の東京富士美術館まで足を延ばし、その帰りに富士急ハイランドに寄り絶叫マシンに乗りました。また、おすしを食べに行ったり、ミルクランドに行ったりして楽しみました。英語で説明するのが大変でしたが、電子辞書を使いなんとか説明できました。家では、日本食にも挑戦しました。ダイアンさんは納豆

に挑戦しましたが、食べるのができませんでした。やはり、あの独特のおいとネバネバ感が原因だと思えます。しかし、梅干しや豆腐、ごま豆腐は好物になりました。こんなに楽しい日々はあつと言う間に過ぎていきま

した。ダイアンさんは「Love Japan!」と言って、帰国しました。私がダイアンさんの家に行くときが来ました。アメリカへは十時間以上に及ぶ長旅でしたが、時差ぼけもなくサンタモニカの生活にすぐに慣れました。サンタモニカへは、お昼過ぎに着いたので、最初にマクドナルドに行きました。お店の中に入るとかと思いましたが、入りませんでした。理由を聞いてみると、店の中は汚いということでした。そして、車の中で食べるのが一般的だということを知りました。家に着いて部屋を紹介されました。荷物を置いて、家族にプレゼントを渡しました。すると、予想以上喜んでくれてとてもうれしかったです。

次の日から、歩いて行ける距離にあるサンタモニカ・ブレイスに行きました。日本ではとジャスコみたいなところですよ。たくさんのお店があつて、毎日行つても飽きないと思ひました。

食べ物、極力アメリカの物を食べるように努力しました。朝ご飯をファーストフード店に食べに行くことも、しばしばでした。当たり前ですが、メニューがすべて英語でほとんど読めませんでした。

だから、その中から知っている単語を見つけ、サンドウィッチを注文しました。すると、すごく大きいサイズのものが出てきてビックリしました。味は、濃い気がしましたが、おいしかったです。アメリカでは、朝ご飯はほとんど外食の人が多くと教えてもらいました。中には、一度も家で朝ご飯を作らない人もいると聞いて、さらに驚きました。

ダイアンさんの家族は、メキシコ料理が好きで、メキシコ料理をよく食べました。その中でも気に入った料理は、



屋上でパーティー

かっただす。二件目のお店は、居酒屋でした。日本人スタッフがいて日本語で注文ができました。メニューも日本語で表記してありました。おもしろいことにキッチンで働いている人は、みんなアメリカ人で、接客はみんな日本人でした。ダイアンさんのお母さんのジェニーさんのお気に入りのお店で

「タコ」という料理です。今まで食べたことのない味でしたが、不思議な味がしました。さらに、ダイアンさんのおじいさんはスペイン人で、スペイン料理も食べました。アメリカにいなながらも他国の食文化を学ぶことができました。

アメリカにある日本料理店にも連れて行ってもらいました。二つのお店に行きました。一件目のお店は、おすし屋さんでした。味はおいしい日本料理を食べることができ、日本食もアメリカで多くの人に好まれていることがよく分かりました。二件目のお店で外食した日は、ジェニーさんの誕生日でした。誕生日に外食をしてお祝いすることは、日本の家庭でもあることで同じであると思ひました。誕生日プレゼントとして、銀色のバッグとお菓子屋さんのクーポンとパスカードをあげまし

た。私が渡したプレゼントに、飛び跳ねて喜んでくれてとてもうれしかったですよ。二十日のお昼は、ダイアンさんの叔母さんのオススメのパン屋さんに行きました。私が注文したのは、パンをくりぬいた中に野菜スープが入っているものでした。スープの味が少し濃かったけれど、すごくおいしかったです。パンもモチモチしていて、おいしかったです。

ダイアンさんの家で、ジェニーさんが朝ご飯に時々作ってくれたタマゴとチーズとレタスをはさんだサンドイッチが、愛情が詰まっていたま

が、辛いのが苦手と言うと辛いものをなくしてくれました。好き嫌いをハッキリ言うことを学びました。自分の意志をハッキリ言わないと伝わらないということが分かりました。

ダイアンさんの家族には、こんな優しくしてもらっていいの？というくらい親切にしてもらいました。私のために、ダイアンさんのご両親

は仕事を一週間休んでくれました。デイズニールランドに連れて行ってくれたり、Six Flagsという絶叫マシン遊園地に連れて行ってくれたり、行きたかったアメリカ創価大学にも連れて行ってくれました。

デイズニールランドでは、すごくたくさんアトラクションに乗りました。中でもお気に入り、パイレーツ・オブ・カリビアンでした。二回も乗りました。あまり並ばなくて、すぐに乗ることができ、スプラッシュ・マウンテンは、前から二番目だったというこ

ともあり、かなり水しぶきを浴びました。昼間なら良かったけれど、夜だったので寒かったです。すごく楽しい一日も終わりました。帰宅時刻は深夜一時でした。Six Flagsでは、待ち時間がすごく長くて二時間も待ったのに、アトラクションに乗る時間は

たったの二三分でした。どのアトラクションからも、「キヤー!!!」と言う叫び声

が聞こえて、その声を聞いているだけで愉快でした。私

も、思いっきり叫びました。

アメリカ創価大学へは、かなりのロングドライブでした。ジェニーさんががんばって、運転してくれました。アメリカ創価大学は、パンフレットで見るとでは、迫力が違いました。敷地が広く、建物も大きくて、設備も充実していて、私はさらにここアメリカ創価大学で学びたいと思いました。ジェニーさんも「この大学に行った方がいいよ!」と勧めてくれました。

二十日に、いとこと一緒にボウリングに行きました。ものすごく楽しかったです。私は、一回ストライクを出しただけで、ファールラインを踏んでしまつて、得点が入らなかつたりしました。結果は、七人中三位で女子の中では、一位でうれしかったです。こんないろいろな事もらつて私は本当に幸せ者だといつも感謝の思いでいっぱいでした。ダイアンさんの家族に出会えて本当に良かったと思います。できることなら、サンタモニカにずっと住みたいと思ひました。

英語の勉強は、普段学校で

習っている英語よりも、はるかにためになりました。ダイアンさんと話していると、きや、会話を聞いてみると、「あつ!この表現、習つた!」とか「この単語どこかで聞いたことがあるぞ?!」などいろいろな発見がありました。いつも電子辞書を持ち歩き、聞いたことがあつた単語を調べたり、知らない単語を調べたりして、自分の語彙力を高めようと努力しました。自分の言いたいことが英語にできなくて、もどかしく思つたことも数多くありました。また、何とか伝えようと思ひ、習つた表現を使つて話してみましたが、自分が言いたかつたこととは別の意味で伝わつていたなど、いろいろな失敗がありました。しかし、その中で学ぶこともたくさんありました。会話の中に、知つている表現が出てくると、少しうれしい気持ちになり、学校の英語の授業もやる意味を感じて、もっと外国で話せる英語を学ぼうと思ひるようになりました。

ダイアンさんとは、日本に

帰つてきてからも、時々メールで交流していますが、このきずなを大切にしていきたいと思ひます。私はこのサンタモニカ研修で、かけがえのない人生の宝物を手に入れることができました。この貴重な体験を生かして、さらに何事も勇気を出して挑戦していきたいと思ひます。最後に、快くサンタモニカへ行くことを許してくれた両親に、行かせて良かったと思つてもらえるように、これからももっと英語を学び、成長した姿を見せられるように努力していきたいと思ひます。この貴重な経験を生かして、さらに何事も勇気を出して挑戦していきたいと思ひます。

このようなチャンスを与えてくださり、さまざまなアドバイスをくださった富士宮国際姉妹都市協会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

六週間の国際交流大成功

静岡英和女学院高等学校一年 小川 詩音

英語に興味があつて、自分の生まれ育つた富士宮が大好きな私にとって、富士宮と姉妹都市のサンタモニカとの交流事業というのはうってつけの体験であると以前から思つていました。市役所からもらつてきた応募紙とにらめっこをしながら、毎日毎日考え込んでしまいました。しかし、いざ今年応募し

「勉強で忙しかったら、それも日本の高校生の実として、サンタモニカからの学生に見てもらえばいい」



お茶を体験

「私たち家族みんなで迎えるんだから、大丈夫」という父や母の言葉や、ホストファミリーとしての三週間を楽しみにしている妹の姿を見て、私も決心を

固めました。
私の家に来たカトリヤは、ブロンドの髪に黒いネイルで、とてもアメリカの典型的な今どきの高校生という感じでした。

でも、話をしてみるとてもしつかりしていて、日本について本を読んで下調べをしておいたり、日本の食事が大好きだったり、私たちは無理することなく三週間を楽しく過ごせました。

私の学校が静岡市で交通費がかかる、テスト期間である面白いつきではないなどの理由で、カトリヤは私の学校へは来ませんでした。でも、せっかくだから日本の高校生活を見てもらいたいと思つて、西高に通っている友人にお願いして、二日間だけですが、一緒に西高へ行かせてもらいました。書道部の部活へも参加させてもらい、とても喜んでいました。

行ったり、料理をしたり、母がしているピーズや粘土細工にチャレンジさせたり、夕方は帰宅した妹に英語を教えるもったりと、皆が協力してくれました。

特に手芸は気に入った様子で、アメリカから持ってきたパソコンや携帯をデコレーションしたりして楽しんでいました。

おもちが大好きだということで、もち米を買って、週末は毎回もちつき機でもちパーティーでした。

サンタモニカの店やマーケットで買うもちとは全然違つておいしいと気に入つてくれました。

浅間神社へ行った帰りに、古い商店街を歩こうとブラブ



ラしていたら、一軒の着物屋さんに入りたと言つて、中に入り、試着したら欲しくなり、浴衣と帯とげたを買いました。

でもうちには着付けのできる者がいなかったもので、近所の人にお願ひしました。

その人は、家に茶室があるので、着付けをしてもらい、お茶も体験させてもらいました。

初めての体験に彼女は、掛け軸や花、茶道の所作について、たくさん質問してきました。

英語だけでなく、日本の文化についても自分が知らないといけないと感じました。

その後、せっかく浴衣を着たのだから、この姿でショッピングセンターに行きたいと言つたので、イオンに行きました。

プリクラも楽しみました。「日本は何もかもがコンパクトでハイテクでかわいい」と言っていました。

散歩に行くときと近所の人たちと話すと私たちを見て、「近所の人と気軽に話をしたり、着

ビーチにて



持たせました。

こんな風に、あつという間に三週間が終わりました。

私のサンタモニカでのステイが始まりました。

気候の違いで、人は物の考え方も異なるのかと思つたのが、第一印象でした。

暑くてもジメジメしていないので汗はかかないし、夜は涼しく過ごしやすいかったです。

私の会った人たちは明るく、細かいことは気にせず、マイペースで、その代わり、他人のマイペースも気にせず、それは悪くはないのですが、私のほうが少し戸惑いました。

出掛ける予定になっているので「何時に行く?」と聞くので「後で」と言われ、結局行けずじまいということが何回もありました。

彼女はお母さんと二人暮らしで、昼間はお母さんは仕事でいません。遅く起きて、朝食兼昼食を外に食べに行つて、そのまま海で遊んだり、ショッピングしたりと、かなりゆるい夏休みの過ごし方

外に出るときは、薬を必ず

びっくりでした。

聞くと、夏休みの宿題はないので、勉強しないとのこと。

私は宿題を持って行ったので、朝早く起きて勉強しました。

こんなゆったりと三週間過ごすのは怖かったので、家で彼女がテレビを見たり、パソコンをいじったりしていると、宿題をしました。

そうして自分のしたいことをしているお互いを尊重し、楽しむときは一緒に楽しくできました。

カトリヤと私のバースデーパーティーを、アパートの庭です。

いつもは毎日メキシカンフードばかりでしたが、このときは、友人が集まって、バーベキューでした。

大きいケーキも用意してもらい、ゲームもしました。

サンタモニカ高校の授業や活動に参加できなかったのが残念でした。

カトリヤの家は、洗濯は週に一回コインランドリーへ

行ってやっていたので、私はバスルームで時々自分の物を洗ったりしました。

カラツとしていたので、夜洗って部屋に干すと、次の朝には乾いていました。

心配していた英語も、少しずつ相手の言っていることが分かり、聞きたいことも質問できるようになり、もう少し長くいたいと思いました。

飛行機で十時間のサンタモニカ。

そこでの暮らし方は、日本と大きく違うところが多く目につきましたが、行く前よりもっと私には近く感じられるようになった気がします。

こうして、カトリヤを日本に迎えて、また、私がカトリヤの家族に迎えてもらい、それが成功に終わり、新たな友情がスタートしたのは、相手を理解しよう、思っていることを伝えたいという思い、少しでも多く、良い思い出を持って帰らせてあげたいという優しさだと思えます。

そういう意味では、人の気持ちに違いはないと、今回の

ことを通して深く感じました。

ホームステイには家族の協力が欠かせません。

私の父母は英語ができるので、大変助かりましたが、ひたすら日本語でカトリヤに話しかけようとしてくれた妹や祖母の存在も大きかったです。

事前のメールも大きく役に立ちました。

今も時々彼女とメールをしています。

将来は、家族とサンタモニカへ行くつもりです。

文化の違いを通して感じたこと

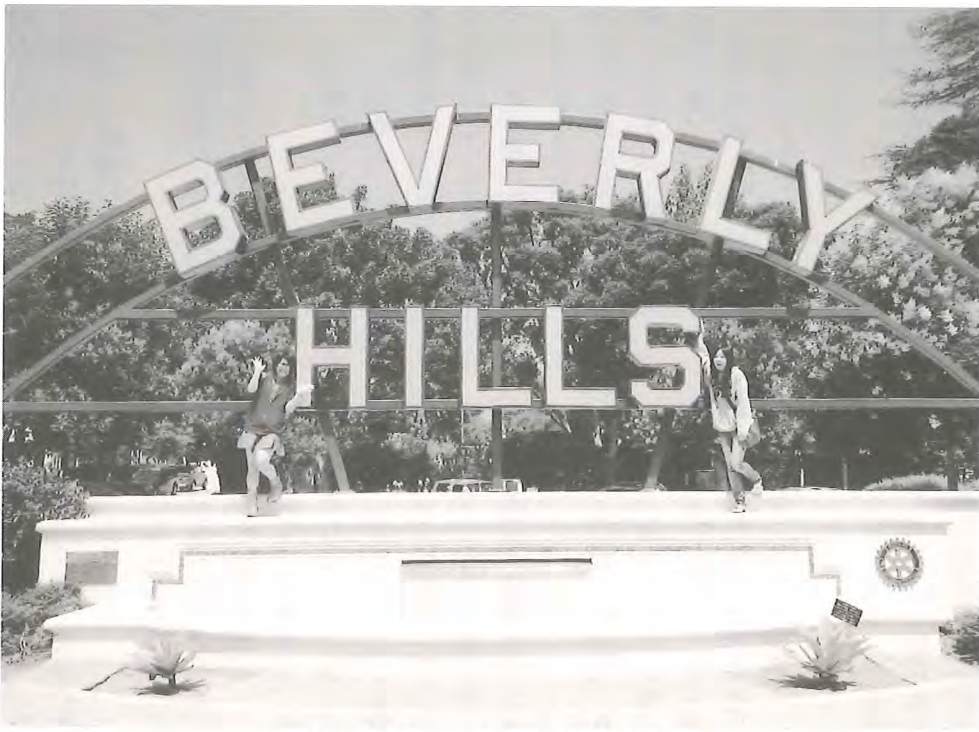
吉原高等学校三年 杉山 桜子

私がこの姉妹都市交換学生事業に応募した理由は、英語力の向上とアメリカの文化に興味があったからです。実際にホームステイを通して現地で生活をし、人生の中で忘れられない経験ができたことにとっても感謝しています。

七月十二日から八月二日までの三週間、サンタモニカから四人の交換学生がホームステイに来ました。サンタモニカからの交換学生が四人に対し、富士宮市の交換学生は五人だったので、私と遠藤瞳さんで三週間の半分ずつの期間、交換学生のカラニ・キヨハラさんと生活をしました。

初めて市役所で対面したときに、彼女の日本語のうまさにとっても驚きました。日本語を三年間勉強しているらしく、普通に会話が通じました。日本文化に興味があるようで、日本の歌手やテレビドラマなどもすぐく詳しくかったです。彼女は日本人以上に日本人らしく、とてもおとなしい性格でした。彼女と日本で過ごすのは約一週間半という短い期間でしたが、私自身も今まで気付かなかった様々な日本文化を体験することができました。学校はまだ夏休みに入っていないだったので、たくさんの方所には行けませんでしたが、楽しく生活することができました。一緒に学校に行ったり、東京に行ったり、書道や太鼓といった日本文化と一緒に体験したりしながら、アメリカとの文化の違いに驚きながらも、日本の生活を楽しくしているようでした。一緒に学校に行ったときは、アメリカの学校より楽しいと言っていたのに驚きました。英語の授業と一緒に受けたときには、実際に使わない英語を教えていたことに彼女は驚いていました。彼女が日本に来る前に学校に行きたいと切望していたので、いい異文化体験になったのかなと思いま





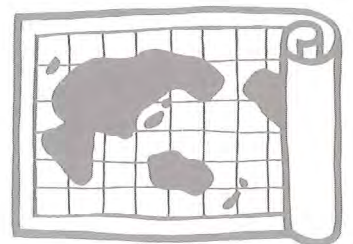
ビバリーヒルズです

した。生活している中でトラブルもなく、私の家族もホームステイを楽しんでくれて、気持ち良く生活することができました。カラニは何事にも興味を持って接してくれ、気になったことはよく質問してくれました。また、私がアメリカとの違いについて尋ねると、丁寧に答えてくれました。サンタモニカの交換学生が書くアンケートの一番嫌だったことを書く欄に「これ以上長く滞在できないこと」と書いてくれてあったことが本当にうれしかったです。もっと長く一緒に生活したかったです。

サンタモニカでの生活はあつという間に過ぎていきました。自分の人生において他の何物にも替えることができないアドベンチャーのような三週間でした。ホストマザーがとても協力的な人で、いろいろな場所に行ったり、たくさんさんの現地の人と交流したりすることができました。夏休みということもあり、生活は不規則でした。朝起きるのはだいたいお昼近くで、就寝時刻は遅いときは夜中の二時に寝ることもありました。カラニの友人がカラニの家に遊びに来て、そのまま泊まっていたりしたこともありました。アメリカの高校生の夏休みの過ごし方は、私が思っていた以上に行動的でした。サンタモニカピアという海岸にある小さな遊園地に行ったり、ビバリーヒルズやハリウッド、デイズニールランドに行ったりもしました。カラニが毎週習っているボクシングの練習にも参加したり、他の交換学生の誕生日パーティーに参加したりもしました。サンタモニカピアでは、毎週木

曜日に無料の音楽ライブをやるそうで、木曜日になると毎週回連れて行ってくれました。音楽に合わせてダンスをしたり、一緒に歌ったり、日本ではなかなか見ることのできないような体験ができ、その場所にいるだけで気分がとても明るくなりました。バーベキューをしたり、一緒にテレビゲームをしたり、同じ時間と同じ場所で同じことをして楽しむ時間が多かったような気がします。また、カラニの友達ともいろいろな場所に行きました。アメリカの高校についていろいろ聞いてみたり、また私も日本の高校の様子を聞かれて、お互いの学校の違いに驚いたり、様々な話題で話をすることができました。いろいろなことに興味を持って質問してくれたり、アメリカとの違いを教えてくださいたりしてくれて、自分と歳が近いアメリカ人と話すのはとても刺激になりました。日本では歳が近いアメリカ人と話す機会はあまりないので、本当にいい経験ができました。アメリカには本当にいろいろ

な国から移住してきた人々が共存しているのです、そこにいるだけで世界中の人々と交流しているような気分になりました。それぞれの人種や育った国によって、物事に対する考え方など文化の違いはありますが、お互いを尊重しあい、受け入れながら暮らしているように感じました。そして日本に比べ、時間を気にしないのでゆったりしていました。なぜ私は日本にいるときはそんなにせかせかしながら暮らしていたのかなと思ったりもしていました。人々がとても穏やかで本当に暮らしやすかったです。特に私がアメリカ人



の温かさを感じたのは、心がとても広いところです。子どもがうるさくしていても、自分たちも昔はそうだったのだからと言って、特別怒ったりもしなく、公園でバスケットボールをしている人が一緒にやらないかと声をかけてくれたりもしてくれました。私が一番人々の温かさを感じたのは、ありがとうと必ず言ってくれたことでした。また、私がありがとうと言うと、どういたしましたと返してくれました。私も必ず言うように心がけました。こんなに短い言葉なのに、すぐに気持ちを良くさせてくれる言葉はこれ以上ないと思います。もっと周りの人々や物に感謝しながら生活するべきだと心から感じました。

食生活においては特に困ったことはありませんでした。カロリーが高い食べ物が多いこととサイズが本当に大きかったことはとても印象に残っています。映画を見に行ったときに、Mサイズのジュースを買ったのですが、注文を間違えたのかと思うぐ

らい大きなジュースが出てきて驚きました。ホストシスターにこんなに大きいの？と尋ねたら、これが普通の大きさだよと言われてさらに驚きました。また、ほとんどのレストランで食べ切れなかった料理は容器をもらえ、持ち帰ることができるシステムに驚きました。日本でももったくさんの店でこうすることができたら、食べ物もったいなくないのになと思います。また、スーパーマーケットで売っている野菜や果物などもとても安く感動しました。

帰国するときは、ホストファミリーと別れる寂しさ

こんな素晴らしい経験をさせてくれた感謝の気持ちでいっぱいでした。また、日本に滞在していた期間も含め約一ヶ月間、一緒に生活をしたホストシスターと別れるのは本当に寂しかったです。また来年もアメリカに来てねと言ってくれたことが本当にうれしかったです。

日本に到着し、久しぶりに家族と会ったときは安心しました。こんな経験ができたのも家族の協力はもちろん、富士国際姉妹都市協会の皆さんや、この事業にかかわってくださったすべての人のおかげです。英語力も一段と上がっていきけるように頑張ります。

実際にネイティブの人とコミュニケーションをとり、自分の英語が通じることのうれしさを感じることで、素晴らしい仲間と出会え、一生忘れることができない素晴らしい体験ができたことにとっても感謝しています。



カトリヤの誕生日パーティーで

三週間の私の成長

星陵高等学校二年 遠藤 瞳

私がこの交流事業を知ったのは、中学生のときでした。学校の総合学習で富士宮市の国際交流について調べる機会があったのです。そのときはまだ、海外についてあこがれの気持ちしかなく、国際交流とはどんなものか知りませんでした。しかし、調べていくうちに、自分もこんな経験をしたいと思い、高校生になったら応募をしようと強く決意したことを今でも覚えています。

強いているのに、こんなに話すことができないなあと思うと、少しショックでした。日本にいない間、彼女はとも楽しそうにしてくれていて、私もうれしくなりました。浅草で浴衣を着て歩いたときはたくさんの人に写真を撮られ、私も彼女も少し恥ずかしかったです。また、東京タワーへも行き、日本の観光地を存分に楽しみました。私も自身も浅草や東京タワーへ行ったのは小学生のとき以来で、カラニがいなければきつと来ることもありないのだろうなと思いました。

ホームステイという形で外国の人を家に迎え入れるのは、私にとって二度目のことでした。他の学生と比べ、一週間半という短い期間でしたが、ホストシスターのカラニが来るのが私はとても楽しみでした。カラニは日本語が上手だと聞いていたけれど、

ありました。食材を英語で教えてくれたりもして、楽しい時間でした。そして彼女は好み焼きをとて気に入り、何を食べたいか聞くと、お好み焼き！とよく言っていました。富士宮やきそばも食べてもらい、おいしいと言ってくれました。日本の食事を気に入ってくれて良かったです。日本文化では、茶道と華道を体験しました。私の祖母が茶道と華道の先生をしているので、本格的な礼儀作法から体験させてあげることができてとても良かったです。また、着物も着付けてもらって、たくさん写真を撮りました。浴衣はあるけれど着物は初めてだと、とても喜んでくれました。

か！と驚きました。彼女は日本語を勉強し始めて三年だそうです。私は五年も英語を勉強

座があったので家族で出かけることが多く、あまり私の友人と話をさせてあげる機会がなかったことが残念だったなと思います。彼女が来るまでは、日本の生活を楽しませてあげられるか不安だ、千枚以上撮っていた彼女の写真を見れば、きつと楽しんでくれたのだろうと思います。さらにお客さんではなく、家族の一員としての受け入れは、私の家族の仲も深まったと思います。また改めて日本文化の良さに私も気付くことができました。

会ってこんなに話せるのか！と驚きました。彼女は日本語を勉強し始めて三年だそうです。私は五年も英語を勉強

八月二日。カラニや他のアメリカから来た交換学生のみ



カラニの友達と遊園地に行きました

で、何でも挑戦していました。聞くと、アメリカにも日本の食べ物売っているスーパーマーケットがあり、彼女の家はそこでよく買い物をするそうです。また、父親が日本人なのもあり、知っている食べ物もたくさんあります。一緒に夕食を作った日も

学校にも連れて行き、一日だけ一緒に授業を受けました。英語の授業では、教科書を読んでもらい、皆本場の英語の発音の良さに感動している様子でした。カラニはとにかく日本が好き、日本人が大好きで、たくさんのお年代の日本の子に会えてうれしかった。夏期講習

本人なのもあり、知っている食べ物もたくさんあります。一緒に夕食を作った日も

んなど、また後でねと言葉を交わし、私も渡米しました。夜の飛行機で行ったのに、アメリカについたときの日付は渡米した日の昼間で、何だか得したような気分になりました。空港ではカラニ、カラニのママ、カラニの双子のキアナ、キアナのボーイフレンド、カラニの弟のトレントが迎えてくれました。私の期待

本人なのもあり、知っている食べ物もたくさんあります。一緒に夕食を作った日も

のママ、カラニの双子のキアナ、キアナのボーイフレンド、カラニの弟のトレントが迎えてくれました。私の期待

のママ、カラニの双子のキアナ、キアナのボーイフレンド、カラニの弟のトレントが迎えてくれました。私の期待

のママ、カラニの双子のキアナ、キアナのボーイフレンド、カラニの弟のトレントが迎えてくれました。私の期待

のママ、カラニの双子のキアナ、キアナのボーイフレンド、カラニの弟のトレントが迎えてくれました。私の期待

のママ、カラニの双子のキアナ、キアナのボーイフレンド、カラニの弟のトレントが迎えてくれました。私の期待



ディズニーランドでミッキーと

や不安は、ホストファミリーへのお土産がたくさん詰まったトランクよりも膨れ上がったように思えます。カラニのママとずっとメールのやり取りをしていたけれど、会うとやはり緊張しました。写真で見た人たちに実際会っているんだと思うと、不思議な感じでした。

サンタモニカは気候が日本

の夏とは全く違い、湿気が全然ありませんでした。昼間は半袖でも大丈夫だったけれど、夜になると昼間からは考えられないほど寒くなりました。それなのにアメリカでは夜の方がみんな活動するので大変でした。カラニにパーカーを借りて出掛けることが多かったです。一緒にカラニの家にホームステイをした桜

子さんと一

緒に、色違

いのパー

カーを着て

撮った写真

ばかりに

なってしまう

いました。

ママやパパ

も体調を気

に掛けてく

れ、風邪な

どもひか

ず、元気に

三週間過ご

すことがで

きました。

カラニの

パパはGO

OGLEに

勤めていて、会社見学をさせてもらうことができました。まさか自分が世界のGOOGLEへ行くことができるなんて思いもしなかったのです。会社でもうれしかったです。会社はとても自由な雰囲気、働きたくなる職場！という感じがしました。こうした世界の企業を見ることで、自分の将来を良く考える経験にもなつたと思います。

他にも、遊園地、ビーチ、

ディズニー、博物館に行きま

した。ママは家で勉強をして

いる人だったので、平日も休

日も毎日どこかへ行っていた

気がします。また、とても顔

が広い家で、出掛けたときに

はたかさんの知り合いに会

い、私たちのことを紹介して

くれたことがとてもうれし

かったです。カラニ自身もた

くさんの友人がいて、一緒に

出掛けたり遊んだりしまし

た。同年代のアメリカの子と

いろいろな話をすることがで

きて良かったです。友人もた

くさんできました。毎日が充

実していて、日本に帰りたく

ない！と思えるほどでした。

そして、この三週間で毎日といていいほど私を感じたことがあります。それは、アメリカの人たちの温かさです。目が合えばニコッと笑ってくれるし、ぶつかれば謝る言葉を絶対に忘れません。私がつぶつたてしまったのに、ごめんさい。大丈夫？と言われたときはとても驚きました。また、アメリカの人たちはコミュニケーションをとることが本当に上手です。日本人は、親しい人でも久しぶりに会うと少し緊張して話せなくなってしまうたり、気まずくなってしまうたりするけれど、アメリカの人たちはまず会ったらハグをします。私もそのハグに何回も助けられました。何だか心が許せて、自分の口から言葉がたくさん出てくるような気がしました。

日本人もこんな風にコミュニ

ケーションがとれたら、国が

今より明るくなるだろうなあ

と思いました。また、アメリ

カの同年代の子は、ものすご

く志が高いです。将来何にな

るの？と聞くと、すぐに答え

が返ってきます。勉強も夢の

ためにやっつてるんだと、本当

に感心するような答えしか

返って来ませんでした。この

ようなたかさんの話や出会いは、自分にとってのもものすごい刺激になりました。私も自分の夢に向かって努力をしよ

うと思いました。

アメリカに来たときは何だ

かすごく遠い国に来てしまっ

たような気がしたけれど、帰

るときにはそんな気持ちは全

くありませんでした。またア

メリカに来てねとカラニとお

別れをしたときも、なんだか本当にまたすぐに会えるような気がしました。こうしてアメリカとの近さを感じられたことも、自分の成長だと思えます。

三週間の中で、本当に人生

が変わるようなたかさんの経

験、たかさんの出会いがあり

ました。このような素晴らしい

機会を与えてくれた富士宮

国際姉妹都市協会の方々や

親に心からの感謝をすること

と同時に、その感謝を自分の

夢の現実という形で返してい

きたいと思えます。

かけがえのない三週間

富士宮西高等学校一年 川口 早紀

Are you ready to go to Santa Monica? の言葉を残して一足先に成田を飛び立って行ったソフィアたち。そしてロサンゼルス空港。ソフィアと彼女の家族に出迎えられたとき、いよいよ自分がアメリカの地に立っていることを実感した。十時間近くの長旅で多少疲れはあったものの、これから始まるサンタモニカでの生活に大きな期待で気持ちが高ぶっていた。日本ではとても静かでおとなしかったソフィアも満面の笑みで、お父さんと弟も「初めまして。これからよろしくね」と温かく私を迎え入れてくれた。ただ、お母さんが出張のため初日に会えなかったことが少し不安でもあるスタートになった。

サンタモニカの気候は非常に過ごしやすかった。暑くもなく、寒くもなく。暑がりの私にとってはこの夏はとてとても快適な気分になることができ

た。街では上半身裸の人がいたと思えば、その隣には温かそうなパーカーを着ている人もいた。皆思い思いの格好をしていかに「自由の国、アメリカ」という感じで、見るものの全てが新鮮で飽きなかった。

ソフィアの両親は共にハーバード大学卒業で、カリフォルニア裁判官(検事?)と UCLA の教授をしているというので、厳しい人たちなのか、私なんか話が合わせられるのだろうかと非常に心配であったが家族は皆フレンドリーでとても温厚だった。私は人と話すことが大好きなのでソフィアだけでなく、お父さんやお母さんにも一生懸命に話し掛けた。彼らは私に日本とアメリカの生活の違いについて話してくれた。それに話をするときはアイコンタクトを取り、必ず笑顔で話し掛けてきてくれた。お母さん

とは何度か夕食後に三十分近く話すこともできた。日本の政治について、学校について、食事についてなど、自分の知るボキャブラリーを最大限に利用することができたと思う。その結果言いたいことが通じ、褒めてもらえたときは最高に気分が良かった。また、私の意見も尊重してくれ、休日に行きたい所はあるか、アメリカで何をしたいかを毎晩食事をしながら聞いてくれた。十二歳のハリーポッター似のかわいい弟とはアイスやケーキが大好きという共通部分もあって話が盛り上がった。ことにお土産に持って行った日本のグミや綿パチを気に入ってくれてうれしかった。

また、サンタモニカは水が貴重と聞いていたので、お風呂に毎日入れるか、洗濯は週に何回くらいできるのかが気掛かりだったが、私が聞くと笑顔で「もちろん毎日お風呂に入ってもいいし、洗濯も言ってくればするからね」と答えてくれた。ソフィアとはサンタモニカ

ではたくさん体験をするのができた。二人でバスを利用してプロムナードという商店街に行った。日本にいないストリートビューで街並みを紹介してもらっていたので、より感動的だった。しかし、街にはホームレスの人々が多く、すれ違うときは少し心が痛くなった。また家の近所のスーパーマーケットへ行ってお土産を買ったり、部屋で英語の字幕が入った日本のアニメを見たりもした。久しぶりに聞いた日本語は世界一美しい言語のように思われた。ソフィアは日本のアニメが好きで「これについてどう思う?」とか「この後のストーリーは覚えてる?」など、たくさんのお話を楽しんでいた。

一番思い出に残っているのは、食生活である。ソフィアの家庭では毎晩のダイナーはお父さんが作ってくれた。お父さんは料理好きで、本当においしかった。特においしかったのはステーキとハンバーガーだ。事前に私の好きな食べ物・嫌いな食べ物を聞

いてくれ、偏食な私が食べられるように工夫もしてくれていた。食後には毎回感想を聞いてきて、とても温かなダイナータイムだった。お母さんはお菓子作りが好きで、チーズケーキやブラウニーなどをよく作ってくれた。ダイナー後に作り始めるため食べるのが九時過ぎのときもあり、ダイエット中の私には少々痛手となったが、本当においしくて帰国のときにはチーズケーキのレシピをもらってきた。結局は体重の変化はなかったのだが。

夕食は五、六回したが、全て違う店に連れて行ってくれた。インド料理やフレンチな





ホストファミリーのみなさん

ど、さまざまなレストランに行った。いくつかのレストランでは、無料サービスとしてマフィンやパンを出してくれて、それもととてもおいしくて、レストランを出る際にはチップを置いていく人が多かった。日本とアメリカとの食の違いはとても興味深く、

知ることができて良かったと思う。

共働きの家庭だった分、週末には多くの所へ連れて行ってもらった。ビーチ、デイズニールランドやミュージアム、ハリウッド、お母さんの職場であるUCLA…。特に楽しかったのはデイズニールランド

である。一時間もかからず行くことができ、待ち時間も日本のように掛からなかった。アトラクションは日本と同じものが多く、「これは日本にもあるのか?」「内容は同じだったか?」とよく聞かれた。

ビーチには、四カ所連れて行ってもらった。小さな遊園地が隣接している所、多くのお店と人でにぎわっているベニスビーチ、シュノーケリングもしたし、帰国する前日は、砂浜でピクニックもした。シュノーケリングは人生初体験で、とても難しく、さらにその日に限って日が出ず寒かった。ソフィアとお父さんと挑戦したけれど、十分もせずに私とソフィアは断念してしまった。

その他ハリウッドで行った蠟人形館は有名人が本物そっくりに作られとても面白かったし、ソフィアのおじいさんにも会いに行った。彼は韓国人で日本語がペラペラだった。その理由を聞いた訳ではないが、これまでのさまざま歴史を考える機会にもなっ

た。また詩音さんのホスト先でのバスデーパーティーはカトリアの大勢の友達とゲームをしたり忘れられない思い出の一つとなった。

生活面では、とても充実していた。日本にいるときよりも早寝早起きで規則正しく生活ができた。不規則な家庭が多いと聞いていたが私のホストファミリーは夕食後は各自、自分の部屋で過ごす習慣だったので、個室を使わせてもらえた私は、テレビで英語を聞く練習をしたり、日記をつけたり、学校の宿題もはかどり恵まれていた。

楽しかったことが多かった反面、残念だったことも幾つ



かある。まず一つ目は、ごみの処理法である。日本はリサイクルが活発であるため、いたるところに分別ごみ箱があり、家庭内でも分別を徹底しているのに対し、アメリカでは家庭内はおろか、テーマパークや街中など、どこへ行っても全てのごみを一つのごみ箱に捨ててしまっていた。中でも一番衝撃的だったのは、スープやジュースの残りまで同じごみ箱に入れてしまっていることだった。普段リサイクルに徹底している日本人の私にとって、最後まで抵抗のある行為だった。二つ目はソフィアの友達に一人も会えなかったことである。日本にいるときは「友達五人くらいに会う予定だよ」と言っていたのだが、実際サンタモニカへ行っただけで「わからない」と言われ、とても残念だった。ソフィアの通う高校は生徒数三千人を超えると聞いたので、同世代の友達に大勢会っているいろいろな話をして、情報を得たかったのだが…。また、私はファッション



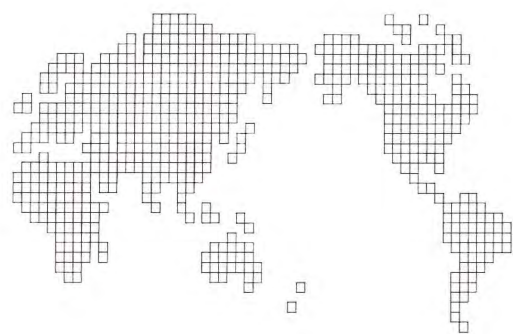
に興味があるのでアメリカのテイーンエイジャーの服を見ることも楽しみにしていた。しかし、ソフィア自身がファッションに興味がなく、アメリカのファッション雑誌について聞いても何も知らないうという感じで、店に入っても退屈そうだったので早々に切り上げるを得なかった。将来の夢の一つにアパレル関係の仕事我希望している私にとって心残りなことだった。

準備をする日になっていた。私物をスーツケースに戻している間、サンタモニカで過ごした皆さんの思い出が次々と脳裏をよぎり、帰国することがとても寂しく感じた。

空港でお別れするときには涙が自然と流れ、サンタモニカで貴重な体験ができたことに感謝の気持ちでいっぱいだった。

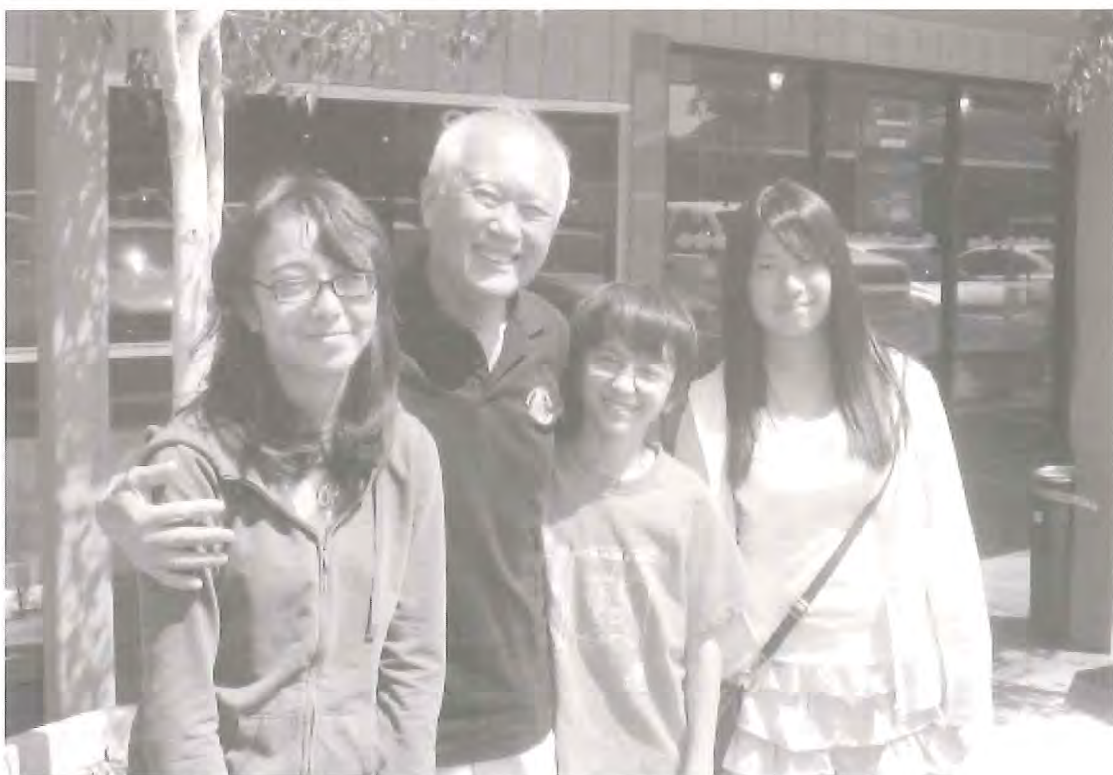
今回の滞在では英語力を高められただけでなく、自分を強くすることができ、自信がついたと思う。普段六人家族で二人姉妹の次女という立場で生活しているだけあり、いきなり一人でアメリカの家にステイすることはとても不安があったし、初めは寂しい思いもした。しかし、三週間のホームステイの中で、自分のすべきことは何かを考え、それを積極的に行うことで、判断力もついたと思う。

それから何といても、サンタモニカの人々の温かさに感動を覚えることができた。話をするときはいつも笑顔で、手を降ってくれる人もいた。レストランでは「この子は日



本から来た特別なゲストなんだよ」と紹介されると、それを聞いた店員さんは「ようこそ！サンタモニカを楽しんでね」と笑顔で返してくれた。

そういった日本ではあまり見られない人々のやりとりを見て、心がとても温かくなっていくのを感じた。国が違っても人を思いやる親切な気持ちがあれば何でも乗り越えられるような気がした。皆がいる、私がいる。家族・友達をはじめとする周りの全ての人々への感謝の気持ちを常に心に、これからの自分の将来を切り開いていきたい。



ソフィアのおじいさんと

平成23年度 交換学生事業

サンタモニカ市交換学生 アンケート結果

Q1. ホームステイの感想を書いて下さい。

- とても良い印象を持った。文化、学校、人々が素晴らしい。日本の生活環境の中で楽しく過ごした。
- 素敵なときを過ごせた。そしてたくさんのことを学んだ。ホストファミリーはとても優しく私を受け入れてくれた。色々新しいことばかりだったが、とても居心地良くいられた。
- とても楽しかった！日本には過去に1度来たことがあるが、それでも驚くことがある。日本はとても美しい国で、出会った人々はみんなとても良い人たち。いつかできることなら日本に住みたい。
- 素晴らしかった。日本は昔から私のお気に入り（前に一度来たときからそう思っている）。そしてその順位は変わっていない。できるなら、ここで一生を過ごしたい。
- とても美しい場所だった。みんながフレンドリーで食べ物はとても美味しかった。帰った後に絶対に恋しくなると思う。



Q2. ホームステイ中に困ったことはありましたか？

- 蚊に刺された。唯一のトラブルだった。
- 唯一大変だったのは暑さだったが、どうかなるものではないので、割と楽に我慢できた。
- 何の問題もなし。多少の言語的な壁はあったが、それを克服するのも楽しかった。

Q3. 日本で体験したことの中で一番楽しかったことは何ですか？

- 日本で体験した中で最高だったのは、ホストファミリー、高校、それに日本全部だ。ホストファミリーは信じられないほど私に優しく、まるで自宅にいるような感覚だった。高校生たちは楽しくて、日本にいること自体が忘れられない経験だ。
 - たくさんある。食べ物が大好きで、お気に入りはお好み焼き。単に味だけでなく、自分で作るのも楽しかった。学校へ行くのも楽しかった。時々退屈だったけど、色々な違いを見ることは面白かった。
 - 日本の家族と日常生活を送ること。アメリカでは1つの家族と一生を過ごすけど、これで他に2つの家族ができたことになる。
 - ホストファミリーといられたことが一番良かった。文化や生活様式の違いを経験できたことが本当に一番だった。
 - そうめんパーティー、水族館、面白い人たちと知り合えたこと。



Q4. 一番イヤだったことは何ですか？

- イヤだったことはなかったが、暑さは厄介だった。蚊の元だ！
- なし。強いて言えば長く滞在できなかったこと？
- 暑さ。でもそれほどでもなかった。

Q5. ホームステイ中、行きたかったけど行けなかったところ、やりたかったけどできなかったことはありますか？

- 富士山。でもホストファミリーは私が行きたい場所には全て連れて行ってくれた。とてもすばらしい家族だった。
- 東京へ行きたかったが、ホストファミリーに頼むには凶々しすぎるお願いだった。それに、他にもやるのが色々あった。
- もしもう一度参加できるとしても、同じことをする。とはいえ、2度目のチャンスがあるとしたら、新しいものを見てみたい。
- 日本全部を見たかった以外には、行ったところ・やったこと全てに満足。
- ディズニーランドに行けたら楽しかったかもしれないが、値段が高すぎる。

Q6. 富士宮国際姉妹都市協会に対し、何かご意見等があれば書いて下さい。

- 富士宮の滞在を本当に楽しんだ。協会のおかげでこの旅行に来ることができた。ありがとうございました。日本語がもっと分かるようになったら、また戻ってきたい。
- 他の日本の学生ともっと集まったら楽しかったと思う。来年以降のホストファミリーに提案として言うだけでもいいと思う。
- この旅行をありがとうございます。一生に一度の経験になった。絶対に忘れない。
- 旅行させてくれてありがとうございました。
- ありがとうございます。とても楽しかった。

サンタモニカ市国際交流高校生 サッカー派遣事業報告

監督 牧野 豊

現地についてまず感じたのは気候の良さだった。雨は降ることがなく、昼間は心地良い暑さで風が吹けば涼しい。朝夕は半袖では肌寒いような気温だった。サッカーをする気候としては最高の状態といってもいいと思う。そして今回試合が行なわれたジョン・アダムス・ジュニアハイスクールは2年前に完成した新しい人工芝グラウンドでこちらのコンディションも素晴らしかった。この条件でサッカーができるという点だけでも、生徒たちには良い経験だったのではないかと思う。

次にホストファミリーについてである。我々も含めて現地の人には大変お世話になった。時間についてもアメリカ人のイメージを変えるほどきちんとしていたし、試合前のセレモニや写真撮影などもとてもフレンドリーに行なってくれた。本当に感謝してもきれない。



くはゲームに対する姿勢など全体的に高いレベルにあったと思う。そういう相手と対戦できたのは生徒たちにも良い経験になったのではないか。今回の遠征で生徒たちはとても貴重な体験をしたと思う。生徒だけでなく私もとても充実した時間を過ごすことができた。ほんの数日間の滞在だったが、全員が大きく成長し、世界への視野を広げることができたのではないかと思う。

最後に、この遠征を企画、運営してくださった関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

サンタモニカにて感じたこと

富士宮北高等学校二年 篠原 正樹

アメリカ・サンタモニカ国際交流サッカーの話聞いたとき僕は、すぐアメリカに行つてサッカーをしてみたいと思つていました。なぜかというところ、アメリカにはどういう選手がいるのか楽しみでしたし、自分のプレーがアメリカで通用するのかわ、試してみたかったからです。このことを親に言つてみたら、「せっかくな」と言つてくから、行つてきな」と言つてくれてうれしかったです。

僕は、初めての海外だったのでもいろいろと不安はあったけどアメリカでサッカーができるということでもわくわくしていました。

僕たちは、成田空港から十時間飛行機に乗り、ついに到着しました。到着したらまずは、サンタモニカの市役所へ向かい僕たちを歓迎してくれました。それから、僕たちは、自分たちが泊まるホストファミリーの家へ向かいました。

最初は、言葉も通じないから、とまどいや不安があったけれどもホストファミリーは温かく僕たちを歓迎してくれました。

サッカーの試合は、三日目と四日目だったのでその日までは、ホストファミリーとまくコミュニケーションをとりながらいろんな所へと連れて行つてもらつたりして楽しく過ごすことができました。

試合当日の日最初は、サンタモニカ高校と対戦しました。最初は思つていたとおり、体格も全然違うし身長差もあるし日本人とは比べものにならないくらい体が大きくてびっくりしました。

前半は、僕は、自分のいつものプレーがすることができなかつたけど、後半では、点も決めることができ、いつもの自分のプレーをすることができました。この試合は、三

対二で見事勝利することができました。

二試合は、ギャラクシーと対戦しこの試合は、一試合目の疲れが残っていたのかみんな運動量が落ち負けてしまいました。

四日目では、この試合の反省点を直して、試合に臨みたいと思っていました。

四日目の最初の試合は、エグザイルズと対戦しました。三日目の反省を生かしていききたいところだったけど、相手のスピードとパス回しで崩されて大量失点してしまいこの試合も負けてしまいました。

アメリカでの最後の試合は、今までの試合でやってきたことを生かしチーム一丸となり戦った結果大量得点することができ快勝することができすごくうれしかったです。僕は、このアメリカ・サンタモニカ国際交流サッカーでたくさんのごちそうを得ることができました。

サッカーでは体格や身長差の違いがあっても十分戦うことができたし、アメリカで自分のプレーの悪いところや良

いところが分かったし少しはアメリカでも自分のプレーが通じたからです。

ホームステイでは、最初言葉がうまく通じなくて困ったりしたけど、うまく辞書などを使いコミュニケーションをとることができました。

僕たちを泊めてくれたホストファミリーには、感謝しています。このアメリカで得てきたことをこれからの部活動などに生かしていき頑張っていきたいと思いました。

アメリカ遠征

富士宮西高等学校二年 臼井 隼

私はこの夏、宮西五人、宮北八人、高専一人と遠征合宿のため十時間という長い間飛行機に乗りロサンゼルス空港に着いた。

アメリカに着き、まず、富士宮との違いを肌で感じたのはサンタモニカの気候です。ここは、日向は暑いが日陰に入れば寒いくらいに涼しいというとても住みやすそうな環境だと思っ

た。

空港を出てバスに乗り目的地であるサンタモニカ市に私たちは向かった。サンタモニカに着き市長さんなどの話を聞きサンタモニカの人たちにとっても手厚くもてなされた。

その後、消防車の上で写真を撮ったりTシャツ、ボールペンなどをもらったりした。夕方になり、ホストファミリーとの対面があった。私たちのホストファミリーの人はスティーブン、ロンダ、イーサン、ダンカンという人たちでとても温かい家族だった。

ホストファミリーの家に着き私たちはとても疲れていたのですがその日はすぐに寝てしまった。

次の日、私たちはハリウッドに行っった。そこでは、映画で出てくるハリウッドスターの名前と手形があった。ハリウッドで少しショッピングをして練習場所のマリンパークに向かった。マリナーパークで調整練習をおこなった。いろいろな疲れがたまっているのか体がいつもよりも重く感じた。練習が終わりその日夜に、別のグループの人たちとサンタモニカのテーマパークみたいな所に私たちは行っ

た。そこでジェットコースターやいろいろなアトラクションを楽しみ、夕食にホットドッグを食べた。ホットドッグは日本で食べたことがないくらいとても美味しかった。時間になりステイブンが私たちを迎えに来てくれた。疲れのせいか私たちは帰りの車の中で寝てしまった。

三日目は、とても良い芝のグラウンドで四十分ハーフの試合を午前と午後に分けて行っった。四十分ハーフのゲームは思っていたよりも辛く一試合で体力をとっても消耗した。

昼食ピザを食べにみんなを連れて行ってくれた。そのピザはとても大きくとても美味しかった。

午後になり、私たちのホストファミリーであるダンカンの所属するチームと試合をした。このチームはとても強かった。個の能力では向こうのチームを上回っている人は



姉妹都市交流

沼津工業高等専門学校一年 遠藤康司

でも、親しみやすかったです。

何人もいたが、組織力や身体能力、体の強さは向こうのチームが上だったと思った。試合は勝つことができずにこの日は一勝一敗だった。夜には家族みんなで録画したロサンゼルス・ギャラクシーの試合を見た。

四日目も昨日と同様に午前

と午後で四十分ハーフの試合

をした。体が慣れてきていた

のかこの日の試合は昨日より

疲れなかった。試合が終わつ

た後、いろいろなホストフア

ミリーの人とビーチサッカー

をした。夜にステイブンと

一緒にサンタモニカのショッ

ピングモールに行った。そこ

でお土産や、Tシャツを買つ

た。この日はホストフアミ

リーの家に泊まる最後の日

だったのでダンカンとサイン

を交換したり、家族みんなで

写真を撮ったりした。少し寂

しい気持ちの中最後の夜を終

えた。

朝になり、ホストフアミ

リーとの悲しい別れを終え

た。その日は、ユニバーサル

スタジオに行き、お化け屋

敷、ジェットコースターに

また、日本の良さも知るこ

とができました。一番は、食

べ物がおいしいということ

です。ホストマザーやアメリカ

に住んでいる日本人が言っ

ていました。

今回の遠征で、初めて海外

に行き英語で話したことやア

メリカ人と交流したことは、

素晴らしい体験でした。しか

し、英語での会話はとても難

しかったです。まだまだ会話

ができるほどの英語の知識は

ないけれど、これから勉強し

て話せるようになりたい

です。海外での仕事が増えてい

る今、このような体験ができ

たことに、とても感謝してい

ます。またアメリカを訪れて

今回の体験を生かしたいと思

います。

私は、八月十八日から二十

三日までの六日間富士宮の姉

妹都市、サンタモニカの高校

生とサッカーを通じて交流を

行いました。また、四日間

ホームステイで、ホストフア

ミリーとも様々な交流を行

きました。

初日、市役所に集まり成田

空港からロサンゼルス空港ま

で飛行機で行きました。飛行

機の中では、半分以上が英語

で少し戸惑いました。空港か

らは、バスでサンタモニカ市

役所まで行き市役所の方や警

察官、消防士の方に歓迎して

いただきました。そして、こ

こで初めてホストフアミリー

に会いました。

そしていよいよ、家に向か

いました。私のところは四人

で泊まりました。もちろんア

メリカの家は、初めてです。

ホームステイで一番不安だっ

たことは、「言葉が通じる

か」ということです。家につ

いて最初にしたことは、子ど

もたちと遊んだことです。子

どもたちとは、サッカーな

どをして遊びました。言葉の

壁もなく遊ぶことができました

。しかし、ホストマザーの

言うことは、なかなか理解で

きなくて苦労しました。それ

でも、ジェスチャーを踏まえ

て何とか理解することができ

ました。

そして、アメリカに来た一

番の目的のサッカー交流で

は、アメリカと日本の文化の

違いを感じました。アメリカ

では、礼という文化がないた

め試合を始める前は握手だけ

でした。また、体格の差から

いつもの感覚ではボールを取

られてしまうこともありまし

た。さらに、スポーツドリン

クや食事が口に合わなくて食

の文化の違いを感じました。

そして、昼食の量が多かった

ことはとてもびっくりしまし

た。また、アメリカのいい部

分も見つけました。それは、

フレンドリーなことです。と



サンタモニカ市国際交流高校生サッカー派遣事業

サッカー競技やホームステイ等様々な交流を通して市民レベルの友好を深め、国際親善とともに高校生の国際人としての資質の向上を図ることを目的として、サンタモニカ市国際交流高校生サッカー派遣事業が8月18日から23日の日程で行なわれました。

● サンタモニカ市国際交流高校生サッカー派遣団名簿 ●

スタッフ

No	役職	氏名	フリガナ	備考	No	役職	氏名	フリガナ	備考
1	監督	牧野 豊	マキノ ユカ	富士宮東高教諭	2	総務	山下裕司	ヤマシタ ヒロシ	サッカー協会

選手

No	ポジション	氏名	フリガナ	高校	学年	No	ポジション	氏名	フリガナ	高校	学年
1	GK	北川 真暉	キタガワ マサキ	富士宮北高	2	8	DF	金 吾 颯	キンゴ ハヤテ	富士宮北高	1
2	DF	坪井 良太	ツボイ リョウタ	富士宮北高	2	9	DF	白井 隼	ウスイ シュン	富士宮西高	2
3	FW	篠原 正樹	シノハラ マサキ	富士宮北高	2	10	DF	望月 秀太郎	モチヅ ショウタロウ	富士宮西高	2
4	MF	荒木 章寿	アラキ アキヒサ	富士宮北高	2	11	FW	鈴木 涼平	スズキ リョウヘイ	富士宮西高	1
5	MF	村野 巧季	ムラノ コウキ	富士宮北高	2	12	MF	碩上 恭平	セキガミ キョウヘイ	富士宮西高	1
6	MF	柿谷 健	カキタニ タケル	富士宮北高	2	13	MF	若林 大知	ワカバヤシ タイチ	富士宮西高	1
7	DF	大石 拳伍	オオイシ ケンゴ	富士宮北高	2	14	DF	遠藤 康治	エンドウ コウジ	沼津高専高	1

● サンタモニカ市国際交流高校生サッカー派遣団成績 ●



■ 8月20日

富士宮市 3 - 2 サンタモニカ高
 富士宮市 1 - 6 ギャラクシーブラック

■ 8月21日

富士宮市 1 - 5 エグザイルズ
 富士宮市 8 - 2 サンタモニカ市選抜

平成 23 (2011) 年度に行われた事業

●会議の開催

総会：平成 23 年 5 月 11 日(水)

●交換学生事業の実施

サンタモニカ市から受入れ：7月12日(火)～8月2日(火)

富士宮市から派遣：8月2日(火)～8月23日(火)

サンタモニカ市側交換学生：4人(女4人)

富士宮市側交換学生：5人(女5人)

●会報『友情』第 31 号の発行

●市民交流事業の実施

★サンタモニカ市親善訪問団派遣

参加者：32人

日程：8月18日(木)～23日(火) 4泊6日

訪問先：サンタモニカ、ロザンゼルス

★サンタモニカ市国際交流高校生

サッカーチーム派遣

参加者：16人

日程：8月18日(木)～23日(火) 4泊6日

訪問先：サンタモニカ、ロザンゼルス

★平成 23 年度交換学生

サンタモニカ側交換学生		富士宮側交換学生	
氏名・性別	学校名・学年	氏名・性別	学校名・学年
ダイアン・ラモス (女)	サンタモニカ高 9年	植松 茉里絵 (女)	富士見高 1年
カトリア・シェルボウ (女)	サンタモニカ高 9年	小川 詩音 (女)	静岡英和女学院高 1年
カラニ・キヨハラ (女)	サンタモニカ高 11年	杉山 桜子 (女)	吉原高 3年
		遠藤 瞳 (女)	星陵高 2年
ソフィア・チャン (女)	サンタモニカ高 9年	川口 早紀 (女)	富士宮西高 1年

平成24 (2012) 年度総会のお知らせ

●と き：5月9日(水) 午後2時～

●ところ：市役所 7階 710 会議室

平成24 (2012) 年度の主な事業予定

●交換学生事業 受入：7月12日(木)～8月2日(木)

派遣：8月2日(木)～8月23日(木)

編集後記
赤池 俊洋

二〇一一年度の姉妹都市協会のプログラムは主要事業が多くありました。高校生の交換学生事業は五名(通常三名)の派遣となり、サンタモニカ市親善訪問団事業も行なわれて三十二名が訪問しました。さらには高校生の選抜サッカーチームの派遣が同時期にあり、さまざまな交流が行なわれました。

この歴史ある協会の国際交流事業は、派遣、訪問などにより多くの学生、市民が国際化に目覚め、特に学生達はその後の進路や留学など、一つのきっかけになった面も多かったのではないかと思います。

今後、地道な努力の積み重ねが皆様の協力と理解を得て発展し、国際交流が一層広まっていく事に期待し、協会としては更に国際交流事業の推進と発展に努力をしたいと思います。